

## コ ラ ム

## 鋼の ISO 規格はいくつある？

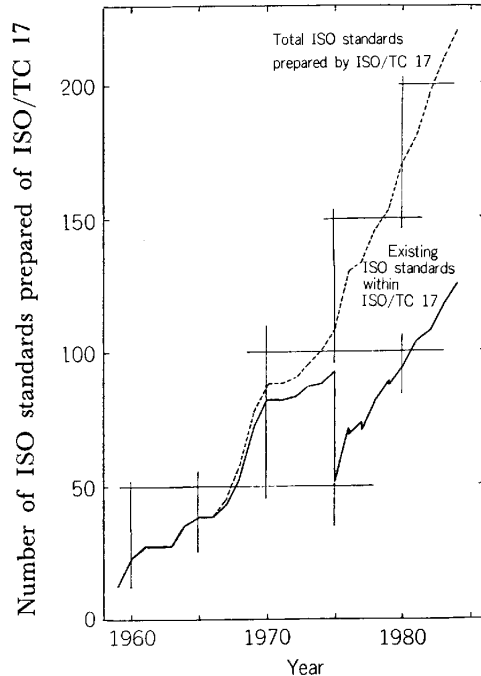
ISO (International Organization for Standardization: 国際標準化機構) はネジなどで知られているが、鋼の ISO 規格の存在はあまり知られていない。

ISO は 1984 年現在 160 余の専門委員会 (TC) を有し、その一つである TC 17 が鋼の国際規格作成に取り組んでいる。TC 17 事務局は、1979 年以来、日本鉄鋼協会内にある。

図は ISO で発行された鋼の総規格数 (破線) と TC 17 管轄下に存在する規格数 (実線) の年次推移を示す。1975 年からの TC 17 の規格数の減少は、鋼の機械試験の規格を他の新しい TC の管轄に移行したためである。

1984 年末で、TC 17 内に 126 の ISO 規格がある。そのうち製品規格が 60% 強を占め、その他、化学分析、金相的試験法などの規格もある。これらの規格は直接取引に使われることは少ないが、各国規格への導入などを通じて、間接的に国際貿易の促進に貢献している。さらに TC 17 での作業中の項目が 120 以上あり、30 ヶ国以上の協力のもとに国際規格化を推進中である。

(日本鉄鋼協会, ISO 事務局 高橋 功)



## 編集後記

今月号も皆様のお手元に無事お届けすることができました。本号は、的場先生の「鉄冶金学の系譜」, 「ジョセフの報告」の完結編と日本の鉄鋼業の基礎を見直す良い機会ではなからうかと思えます。ぜひ御一読下さい。

今年も秋の大会が、あと1カ月にせまりました。今後の鉄鋼協会誌の内容を占う上でも、その動向は見逃せません。特に注目すべきは、今年の春の大会より新設された萌芽・境界部門の急成長です。ちなみにその傾向を見てみますと、講演総件数 867 件、そのうち 76 件で内訳は、チタン 36 件、複合材料 16 件、接合 3 件、セラミック 2 件、超塑性 14 件、電磁気冶金 5 件、センサー関係 8 件です。乞御期待!!

久しぶりで現場の QC 大会 (自主管理活動) を聴講する機会がありました。金賞を射とめた若者の発表

は、イラストが巧みで、まるでコミックスを見ているような気分のうちに諒解することができました。

そういえば、OA 事情が社内の報告書もマンガチックになり、目的、方法、結果と今後の展開など一目で分かるようなものが求められ、発表もオーバーヘッドとする機会が増えています。

ひるがえつて我が「鉄と鋼」誌を理解するには多少の時間と余裕がいるようです。なんとかこのぼう大な内容がたちどころに頭に入つてこないかと思えます。

しかし、結果だけを追い求めると、中間のプロセスがブラック・ボックスになつてしまう危険性もあり難しいところ。やはり、技術の勉強のためには、たちどころに分らない方が良いのかもしれません。

(T.M.)